

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000084		
法人名	株式会社 森津介護サービス		
事業所名	グループホーム森津苑 うめユニット		
所在地	豊田市大島町栄25番1		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2393000084&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てのホームで広々とした芝生があり開放的にのんびりとした生活が送れます。日々の生活の中では利用者様に寄り添い今までの生活暦を出来るだけ変える事なく、その人がその人らしく暮らせるお手伝いをするホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は、弥富市でGHを運営しており、これまでも数々の課題に取り組んできた。その実績をもとに、豊田市内にホームを新設したが、運営面での実績があることで、家族にとっては安心であるとも言える。ホーム代表者の「土の匂いが感じられるホームでありたい」という思いから、ホームは平屋であり、ホーム前には広々とした庭園がある。その庭でバーベキューを行ったり、太鼓を披露したりと、庭は存分に活かされ、利用者は、まさに「土の匂い」を感じながら生活できている。さらに、医療面でも認知症高齢者の診療に実績のある専門医による往診もあり、医療面でも十分な体制がつけられている。また、ホームが平屋で、窓が掃き出しになっているため、非常災害時には利用者の避難がしやすく、緊急車両も入りやすい構造でもあり、利用者の安全性も高いホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員に理念が浸透しているとは言いがたく今まで以上に共有し実践していけるように努めます。	理念は、新たに着任したホーム長のもとで作られた。理念を玄関に掲げ、職員への周知を図っているが、運営面でも反映には至っていない段階であり、理念に基づく運営は今後の課題である。	グループホームに求められている役割、職員に求められている資質など、ホーム長は職員への浸透をすすめている。理念に基づく運営ができるよう、今後の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常では散歩の時に近所の方と挨拶を交わし 時には自家製の野菜を頂いたりしている。 区の秋祭りにも参加している。	町内会に加入し、地域の方との交流を図っている。秋祭りに子供みこしが訪問したり、地域の消防団との意見交換を行っている。また、ホームの行事の際には、地域の方のお誘いを行っている。	今後、より地域との交流が図られるよう、日常的に地域の活動に参加できるように、取り組みを続けられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に気軽に見学に来て頂くことで認知症の方への理解を深める事は事業所の役割だと理解しているが実践されていないので努力したいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1度実施しておりご家族や行政からの意見やご要望は速やかに検討しサービスに活かす様心掛けている。	会議では、ホームにおける現状と課題を話し合い、意見交換に努めている。身体拘束、食事、医療連携、非常災害、テーマは多岐にわたっている。また、会議のときに、ホーム行事を行い、出席者との交流に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスを提供していくうえで不明な点などは相談している。今後は積極的に協力関係が築ける様取り組んでいきたい。	市の調整会議に参加し、行政担当者からの指導等を確認している。さらに、ホームに介護相談員が訪問し、意見交換を行っている。また、市の作品展に作品を出展し、利用者に見学に出掛けている。	
6	(5)	代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで昼間は開放している。身体拘束については家族の同意のもとやむを得ず行うことがあったが今後は身体拘束をしないケアに取り組むたい。	身体拘束を行わない方針であるが、やむを得ない場合は、家族の同意をとっている。市の指導で、期限を定めることを指摘され、運営推進会議でも話し合った。なお、ホームの玄関、ユニット出入り口、窓には施錠なく、出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対し注意を払い防止に努めているが関連法についても学ぶ機会を設けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解している職員は少なく実際に利用している方も数名みえるので勉強会など実施し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定については家族に連絡し不安のないよう入所・退所支援に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族のご意見要望については、いつでもお受けしている。今後、意見箱の設置もしていきます。月に一度介護相談員も来所し外部者へ表せる機会を設けている。	家族には、ホームに来てもらいやすい環境をつくることに努めており、バーベキュー、餅つきなどのホーム行事には、家族に来てもらい、交流に努めている。また、ホーム便りを2か月に1回送付し、利用者の様子を写真入りで家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で働く職員の意見はとても重要と考え管理者は随時意見や提案を聞き代表者に相談し運営に反映するよう心がけている。	職員からの意見をユニット会議等の場で吸収し、代表者にもつなげ、運営に反映させている。今年の1月より新たなホーム長が着任したことで、職員との信頼関係の構築に努めていきたいと考えている。	ホーム長やユニットリーダーの役割を明確にしながら、職員が意見を出しやすい環境をつくることも必要である。今後のホームでの取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員がやりがいを感じ向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みは、まだまだ必要であると感じている今後研修や勉強会の機会を増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、市の調整会議への参加と他ホームの便りを頂くぐらいである。同業者と意見交換など出来るよう交流を深めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の情報収集に努め新しい環境への不安を少しでも取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱える不安を少しでも和らげられるよう不安や要望に耳を傾け応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスかの見極めはケアマネを混じえ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場におかず人生の先輩として接し生活を共に楽しめる信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との絆は大切であると考えご家族には面会時や電話で現況を伝え共に支えていく信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望まれることはご家族にも相談しながら支援に努めている。	以前の近所の方の訪問がある方や、家族と通院の際に外食をする方もいる。さらに、正月に一時帰宅して、親族との交流をする方もいるなど、以前からの関係継続ができるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しよりよい関係が出来る様又トラブルにならない様スタッフが仲介に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても状態を把握し関係が途切れない様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段より一人一人の方の話を傾聴し希望に添えるように努めている。	入浴時やリビングで寛いでいる時などに、思いや意向を、直接本人に聞いている。意思表示の困難な方には、職員の記録、家族からの意見などを参考にしながら、職員間で話し合っている。また、アセスメントは6か月に1回見直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報を頂きご本人様との日常会話からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化することについては、スタッフ同士申し送りをし把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にはご家族の意見も文面にて頂ける様にしているが白紙での返答も少数あるので今後はカンファレンスに直接参加して頂く事も考えている。	一人ひとりの生活パターンを24時間シートに落とし込み、担当者がチェックをしやすいように工夫して得ている。月1回のユニット会議で話し合い、計画は3か月に1回見直しにつなげている。	職員にとって、現状の記録のとりに方について、賛否があるようである。分かりやすい方法、負担感が少ない方法等、全員で意見を出し合いながら、より良い介護計画につなげられたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と申し送りにてスタッフ間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズに出来るだけ対応する柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ不十分だと感じている。今後、地域資源をもっと把握し安全で豊かな暮らしの支援が出来る様努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医について納得されていて定期的な往診で適切な医療を受けられている。	ホーム提携医による往診や受診の体制が整っていることで、ほとんどの方が提携医をかかりつけ医としている。さらに、月1回専門医による往診もある。また、看護師が週2回訪問し、健康チェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師又は医師に直接報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出し面会に行った時は病院関係者からの情報を聞き現況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合の指針をお渡しし説明をしている。主治医より重度化の予想がされる場合は早目に対応しその都度家族を混じえ話し合いをしていく。	家族には指針を示し、方針と意向を話し合っている。ホームでは、重度化の対応に経験と実績があることで、重度化しても支援できるように体制作りを行っている。現状、重度の方もいることで、職員間でも方針や支援方法の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が身につけている状態ではないが連絡体制などは確立され実践されつつある。定期的な訓練を実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署と連携し年に2回実施している、水害については今後行いたい。地域との協力体制にも力を入れていきたい。	年2回、避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も実施している。ホームが平屋で窓も掃き出しであるが、職員間で、最良の避難方法を考えている。また、ホーム内に食料等の備蓄もあり、緊急時に備えている。	緊急時における地域の方との協力体制の構築は、今後の課題である。運営推進会議、地域の祭事等の機会を捉えながら、地域の方との交流に努められたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねない声かけで対応している。	職員はトイレのカーテンやドアを閉めることや、言葉遣いや言い方にも気を付けながら、一人ひとりの尊厳を踏まえた支援に努めている。今後も、言葉遣いについて、どのような場面で、不適切な言葉が出るのか、検討することも考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志尊重に努めているが日常生活の中でもっと自己決定出来るような環境づくりをしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に体調などに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪きりや髭剃り、理容は細めにおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを活かすことは誕生日の時だけになっている準備や片付けは出来る範囲で一緒に行っている。	朝食は、買い物で調達しているが、昼食と夕食は食材の配達である。調理や配膳は、主に職員が行っているが、利用者も可能な方は参加している。食事の際は、職員も利用者同席し、お互いに会話をしながら食事を行っている。	今後の方向性として、利用者と一緒に買い物をしながらメニューを考える機会を増やしたいと考えている。食事は生活の中で大きな楽しみであるため、利用者の楽しみが増える取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の平均的な摂取量を把握し栄養不足や脱水にならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにてお誘いするも自立の方に限り毎食後となるとなかなか出来ていないので今後声かけの工夫により改善していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった排泄方法で失敗のない様パターンを把握し支援出来ている。	オムツ着用の方は、時間をみながら交換している。昼間はできる限り、トイレでの排泄を目指し、職員も声かけに努めている。なお、随時のトイレ誘導の結果、排泄状態が改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤で調整している方が多いので今後水分の摂取量や運動・食物繊維などで自然に排泄して頂けるよう支援したい		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみながら、希望に沿って入浴して頂くが職員が時間を決めていることもある今後もっと自由に楽しい入浴支援に努めていきたい。	入浴の準備を毎日行い、利用者の入浴を促している。時間は時に決めていないが、現状、午前中が中心になっている。時に、入浴剤を入れたり、柚子湯や菖蒲湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた休息や睡眠が出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃から体調観察に努め服薬での変化があれば看護師や医師に相談しながら支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かした役割についてまだまだ努力不足である。今後もっと喜びのある日々を過ごせる様努力したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿ってという点では、かなり努力不足である今後家族の協力を得るなど少しでも希望に添えるよう努力したい。	散歩として、ホームの近所を歩くほか、買い物に出掛けることもある。ホームでは、全員で外出する機会をつくっており、花見や公園等へ出掛け、その様子をホーム便りで報告している。また、利用者の誕生日に合わせて、小遣いを持って、利用者と一緒に買い物に行く工夫も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは支援されていないので今後よく話し合い支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればお断りすることなく支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では季節を感じられる様な花を飾ったり壁を装飾している。温度や湿度には気を配っている。	ホームは広々とした敷地に平屋の建物であるため、開放感がある。居室の外にはウッドデッキがあり、利用者の出入りも自由である。芝生が張られた庭も広く、バーベキュー等、家族との行事にも活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになるのは難しいが気のあった方で楽しく過ごせる様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはご本人とご家族により使い慣れた物を持ち込んで頂いている。	ベッドはホーム備え付けであるが、畳に布団を敷いている方もいる。ホームへの持ちこみは自由であり、テレビやタンスを持ち込んだり、家族との写真や作品を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には利用者様のお名前があり、お風呂には目印になるよう暖簾をかけている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム森津苑

目標達成計画

作成日: 平成 23年 4月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画についてのご家族の意見を今まで文面にて頂いていた。	カンファレンスへの御家族の直接参加。	運営推進会議等にてケアプランの重要性を説明するとともに、ご協力を願い、プラン作成にあたってのカンファレンスの参加を促す。	3ヶ月
2	26	介護計画に伴う記録について、分かりやすさや負担感等で賛否がある。	分かりやすく負担感のない良い介護計画につなげられる記録のとり方の確立。	研修後で、介護計画に伴う記録の重要性を十分理解したうえで、ユニット会議等で、種類、書式等を話し合い決めていく。	1ヶ月
3	35	災害に対する対策は、ホーム独自で避難訓練を行っているにとどまっている。	緊急時における地域の方との協力体制の構築。	運営推進会議をはじめ、地域の祭事等、交流の機会を増やし、災害対策を地域レベルにて構築していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月